

順天堂大学大学院ヘルスコミュニケーション学 コースの概要と将来的展望

～ 医療者と患者間のコミュニケーションを支援する、
医療通訳者の養成を目指す ～



順天堂大学大学院医学研究科医科学修士課程医療通訳分野
国際教養学部 大野 直子



2020.11.04 (WED)

プレスリリース 大学・大学院

順天堂大学大学院医学研究科に医療通訳者養成のための「ヘルスコミュニケーションコース」を開設

～ 医療者と患者間のコミュニケーションを支援する、医療通訳者の養成を目指す ～

順天堂大学大学院医学研究科（医学研究科長：服部信孝）は、医学研究科医科学専攻修士課程に、医療通訳者（英語・中国語）を養成するヘルスコミュニケーションコースを開設します（2021年4月開講予定）。ヘルスコミュニケーションコースでは、厚生労働省の医療通訳養成カリキュラムに基づく認定医療通訳者養成講座を修め、医療通訳に必要な専門的知識、技法を体得し、医療通訳を必要としている患者や家族に適切な支援を提供して、医療者と患者間のコミュニケーションを支援する、医療通訳に重要な役割を果たす人材を養成します。



本 日 お 話 す る こ と

- なぜ、医療通訳者の養成が必要なのか？
- 医療通訳とヘルスコミュニケーションはどのような関係があるのか？
- 順天堂大学大学院医学研究科の医療通訳コース内容
- ヘルスコミュニケーション学コースの将来的展望

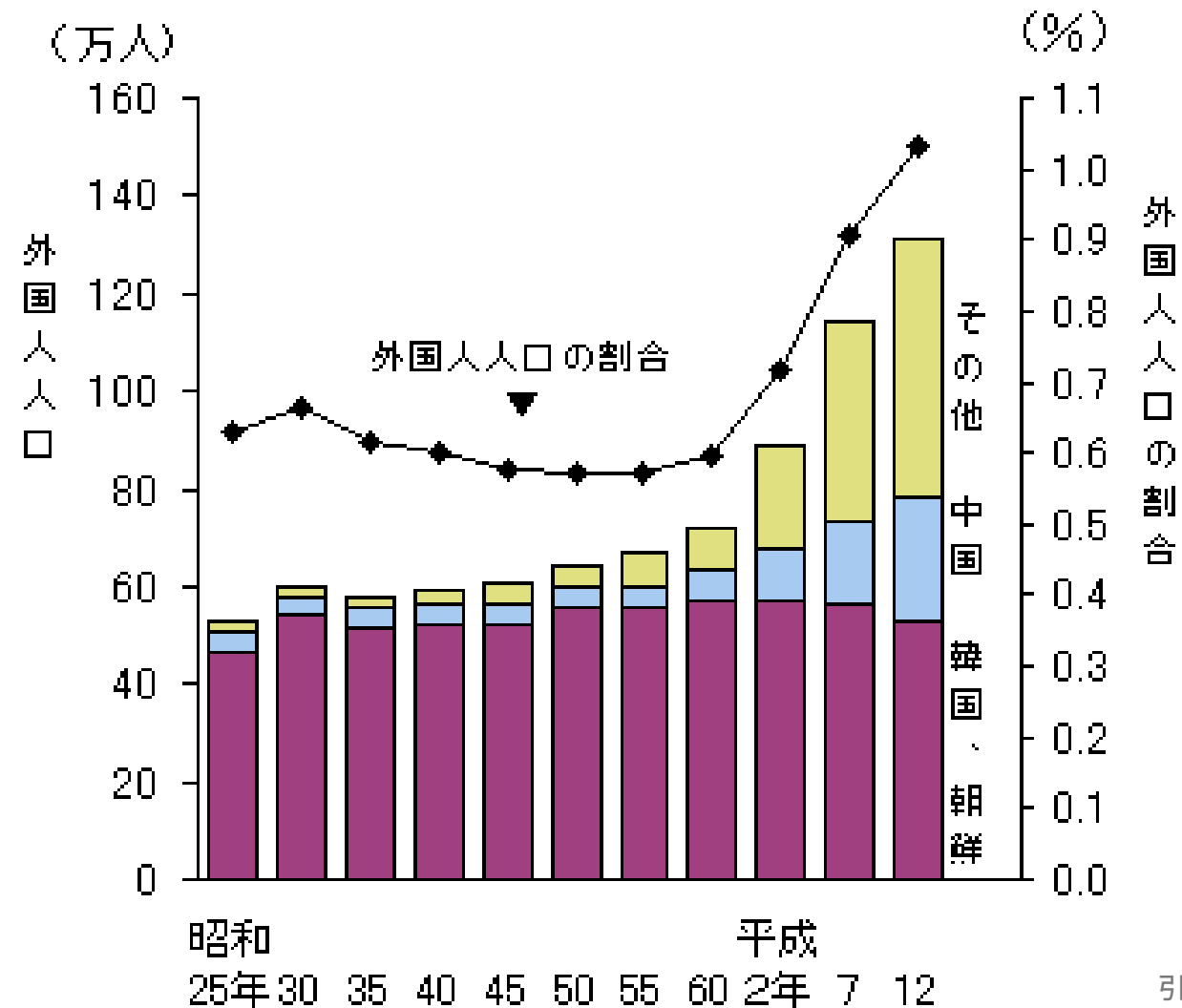
なぜ、医療通訳者の養成が必要なのか？

(医療通訳とその養成の背景)

「外国人」患者とは： 主な分類

1. 在留外国人患者
2. 医療目的で日本の医療機関を受診する
渡航受診者（医療ツーリズム）
3. 滞在中に治療が必要となった外国人旅行者

在留外国人人口割合の増加

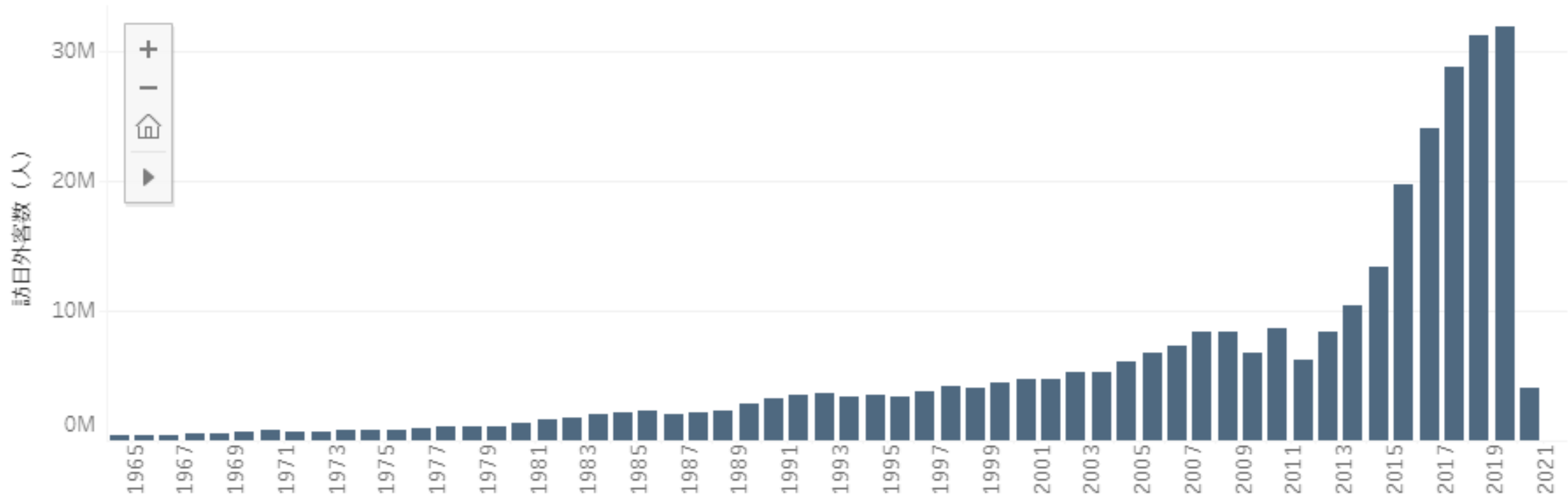


訪日外国人数の増加

引用元：日本政府観光局Webサイト
<https://statistics.jnto.go.jp/graph/#graph--inbound-travelers--transition>

© 日本政府観光局 (JNTO)

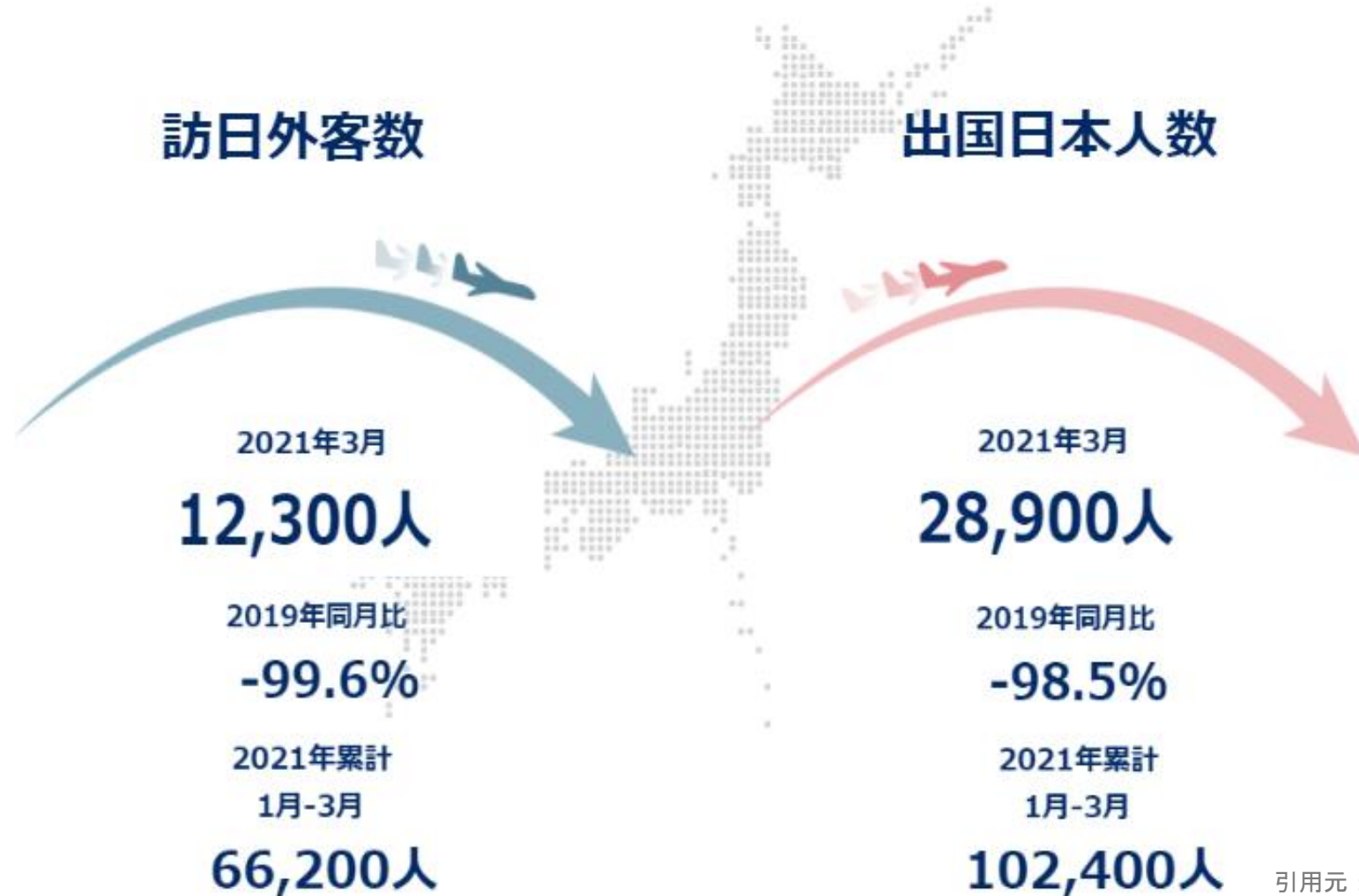
年別 訪日外客数の推移



データ更新日: 2021/04/27 6:28:28

2021年3月訪日外客数 および 出国日本人数

2021年3月 訪日外客数および出国日本人数



外国人患者増加の背景：改正入管法

1951年出入国管理及び難民認定法

入国・出国、外国人の在留資格
不法入国などに関する法律
略して「入管法」



1982年の改正

「戦前から日本に住んでいる韓国・朝鮮・台湾人」の特例永住権認定

15歳から64歳の年齢層が減少したため改正

日本全体の人手不足が緩和



2019年の改正入管法 (出入国管理法改正案)

深刻化した人手不足の一助として、在留資格「特定技能」が新設、専門技能を有する外国人雇用が可能に

「外国人労働者の数を増やし、国内の人材不足を解消しよう」



病院における 外国人診療の現状

- 適切な医療へのアクセスが難しい
- 不十分な医療通訳者の数
(特に日本における希少言語)
- 多言語の書類や、食事対応、
祈祷室などに苦慮
- 自己申告の病気と診断の解離
- 支払のシステムが違うので、
未収金問題につながることもある



外国人医療の障壁

言葉の壁

やさしい日本語、ツールの活用、
図と一般用語、通訳の活用

文化の壁

医療文化など

制度の壁

入院日数、診察時間、医師指名制、
保険制度、支払い方法など



外国人医療の障壁



言葉の壁

やさしい日本語、**ツールの活用**、
図と一般用語、通訳の活用

- 単語レベル（大動脈瘤、など）は正確
- 長い文章になると怪しくなってくる
- 同音異義語の間違いには注意
- ICなどではなく、単純な場面で短文で使用

医療通訳：ツールか対面通訳か？



- あいさつ
- 定型表現を含む会話
- 日常的なやりとり
- ジェスチャーで意思疎通可能な簡単な検査

医療通訳者の役割は、医療場面において、異なる言語や文化を持つ医療従事者と外国人患者の間に入り意思疎通を成立させることです。

(厚生労働省Webサイト内 一般財団法人 日本医療教育財団発行 医療通訳テキストより)



医療通訳≠ 語学＋医療に関する知識

医療通訳= 語学＋医療に関する知識

＋異文化コミュニケーション

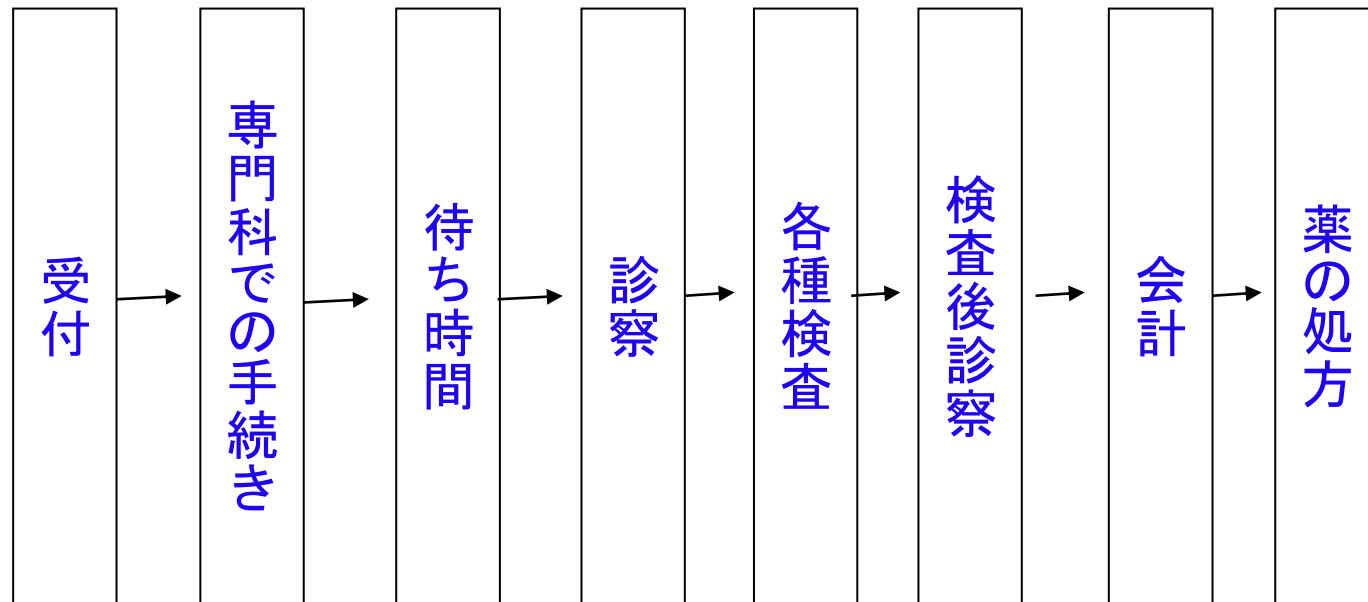
＋ヘルスコミュニケーション

医療通訳者の種類

内部型		医療通訳者または語学ができるスタッフを常勤または非常勤として雇用し院内に配置。
外部型	医療通訳者派遣事業者利用	必要なときに外部の医療通訳派遣事業者等から医療通訳者の派遣を受けて対応。
	遠隔通訳サービス利用	遠隔通訳サービス事業者と契約して、必要なときに電話等による遠隔通訳サービスを利用して対応。
	国際医療コーディネート事業者利用	国際医療コーディネート業務の一部として、コーディネート事業者に所属または契約する医療通訳者を派遣してもらって対応。
混合型		状況に応じて、時間ごとや患者ごとに複数の活用方法を組み合わせて対応。（例：内部型＋遠隔通訳サービス、医療通訳者派遣＋遠隔通訳サービス）

医療通訳の流れ

医療通訳が行われる一連の場面

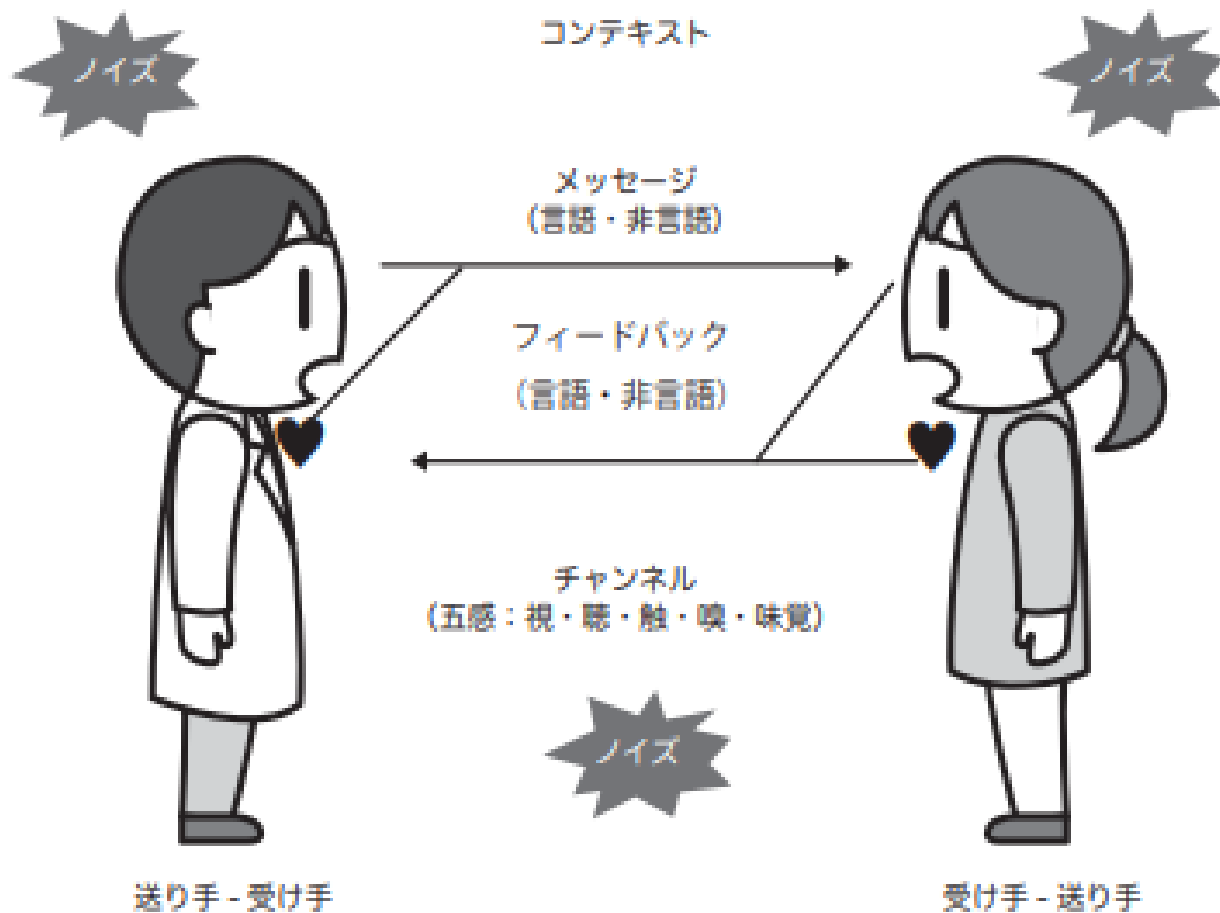


会議通訳と医療通訳（コミュニティ通訳）の主な違い

	会議通訳	医療通訳
言語使用域	熟語やジョークなど一部インフォーマルなものもあるが一般的にはフォーマル	非常にフォーマルなものからインフォーマルな場合まで多岐にわたる
訳出方向	ほとんどの場合一方通行	双方向
近接性	一般的にブース内で話者とは離れている	話者に近く、やりとりに密接に関わる（遠隔通訳を除く）
通訳形式	一般的に機器を用いた同時通訳、逐次通訳の場合もある	短い逐次、長い逐次、サイトトランスレーションなど様々な形式
通訳をする相手	専門家	様々な対象者
通訳者の人数	2～3名（チームで通訳）	1名（1人で通訳）

医療通訳とヘルスコミュニケーションは
どのような関係があるのか？

対話によるコミュニケーション —医療通訳はDialog Interpreting—



▶図：対話のコミュニケーションの構図



意味的ノイズ：

「送り手と受け手の間で、共通理解がない言葉や表現によって起きる障害」

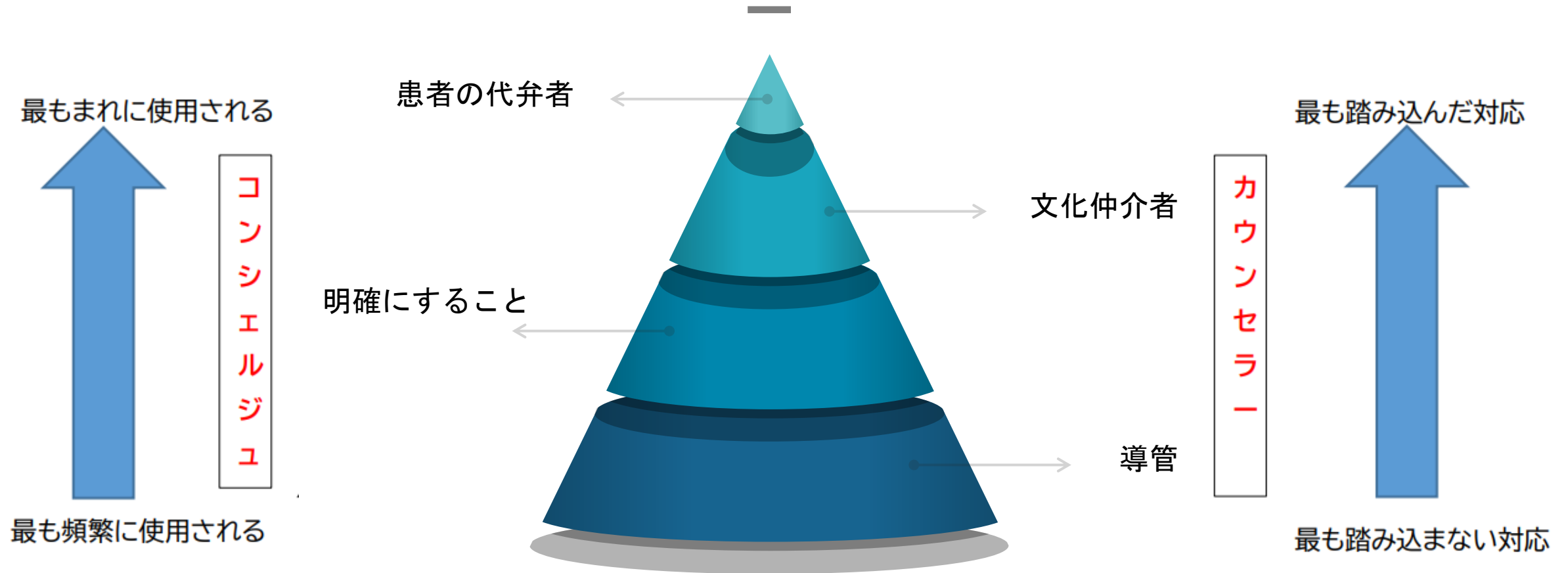
ex. 専門用語、文化の違い等

医療通訳者の非言語コミュニケーション

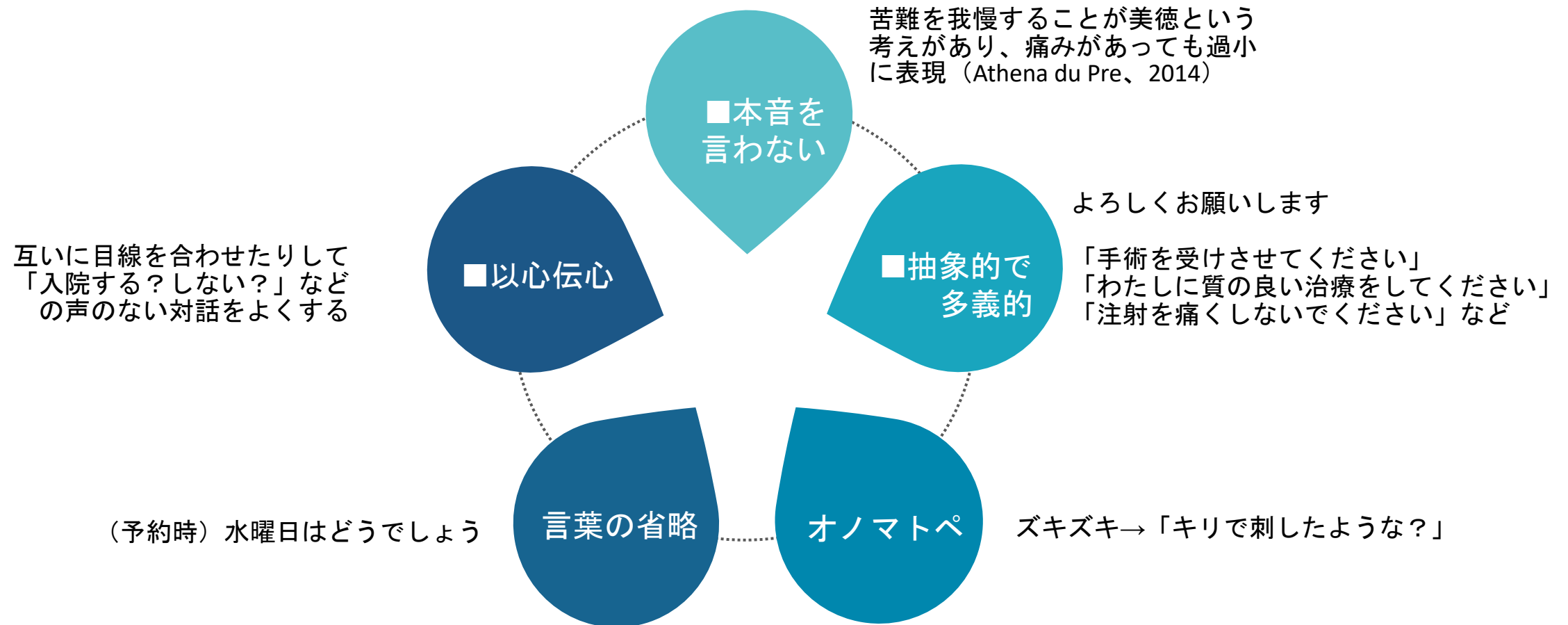
■立ち位置（空間的距離、位置）	■通訳者が患者の後ろに立つと、患者と医療従事者が互いに視線を合わせて対話することができる
■表情（身体動作）	言語メッセージと表情が矛盾していないか
■話し方やタイミング（準言語的C）	マスクをしているときには特に注意聞きづらいと信用を得にくい
服装	周囲の医療者から浮かないように
におい	香水はNG。周囲の医療者を参考に



医療通訳者の役割



異文化コミュニケーション： 日本人のコミュニケーションの特徴



NCC職員のための 外国人がん患者の受入参考書

国立がん研究センター中央病院・東病院



Part 1 ▶ 患者を知る

1-1	中国の基本情報	4
1-2	中国の医療事情	10
1-3	中国人から見た日本の医療	15
1-4	受入れ時の注意点	20

PART 2 ▶ 患者受入業務

2-1	受入フローについて	25
2-2	病院内各スタッフの役割とチェックリスト	30
2-3	言語ツール、院内表示、 問診票に追加すべき項目例	33
2-4	入院生活の環境整備	38
2-5	治療終了・退院時の手続き	40

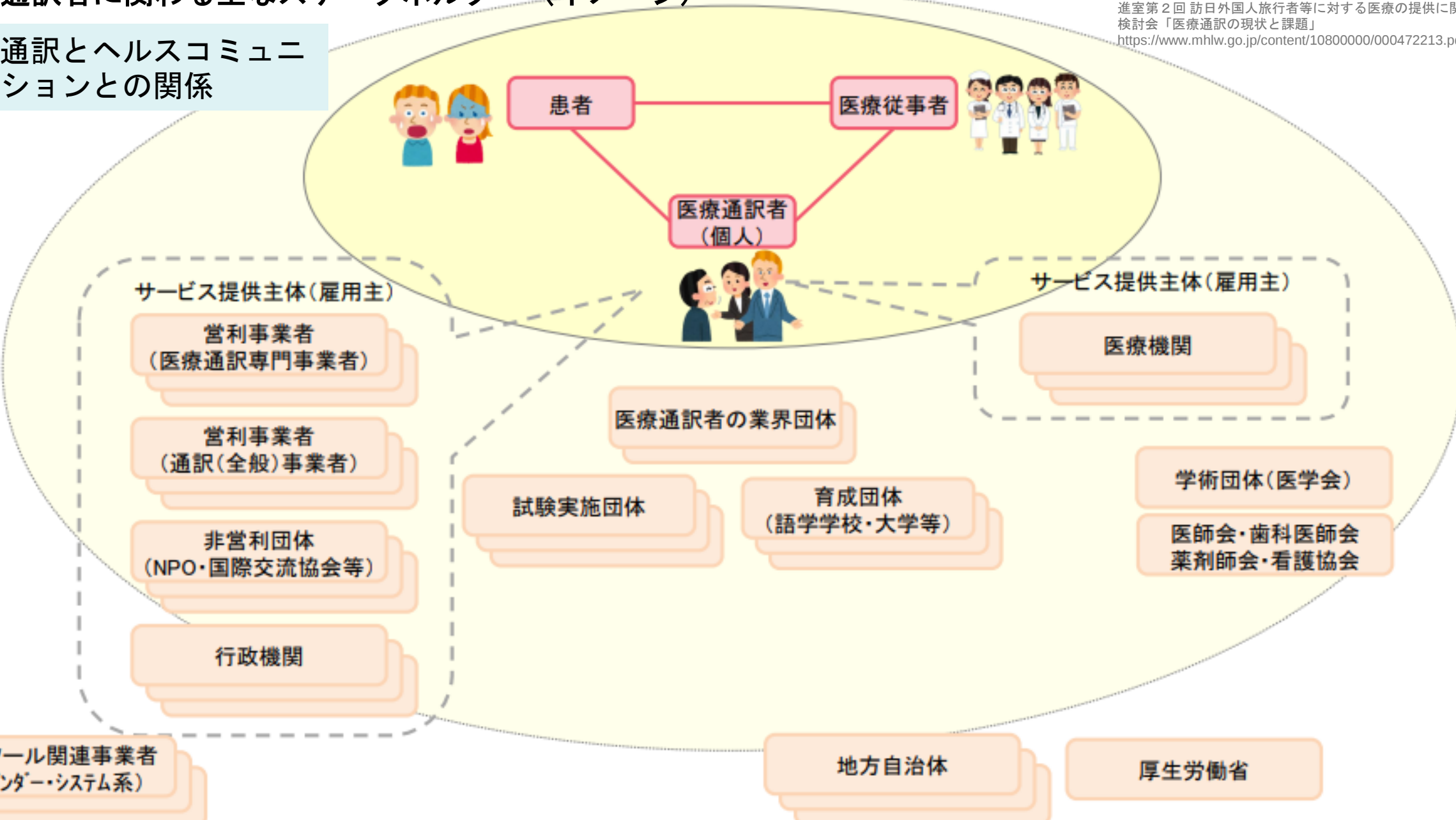
PART 3 ▶ リスクの回避

3-1	トラブルの予防と対応	42
3-2	保険について	47

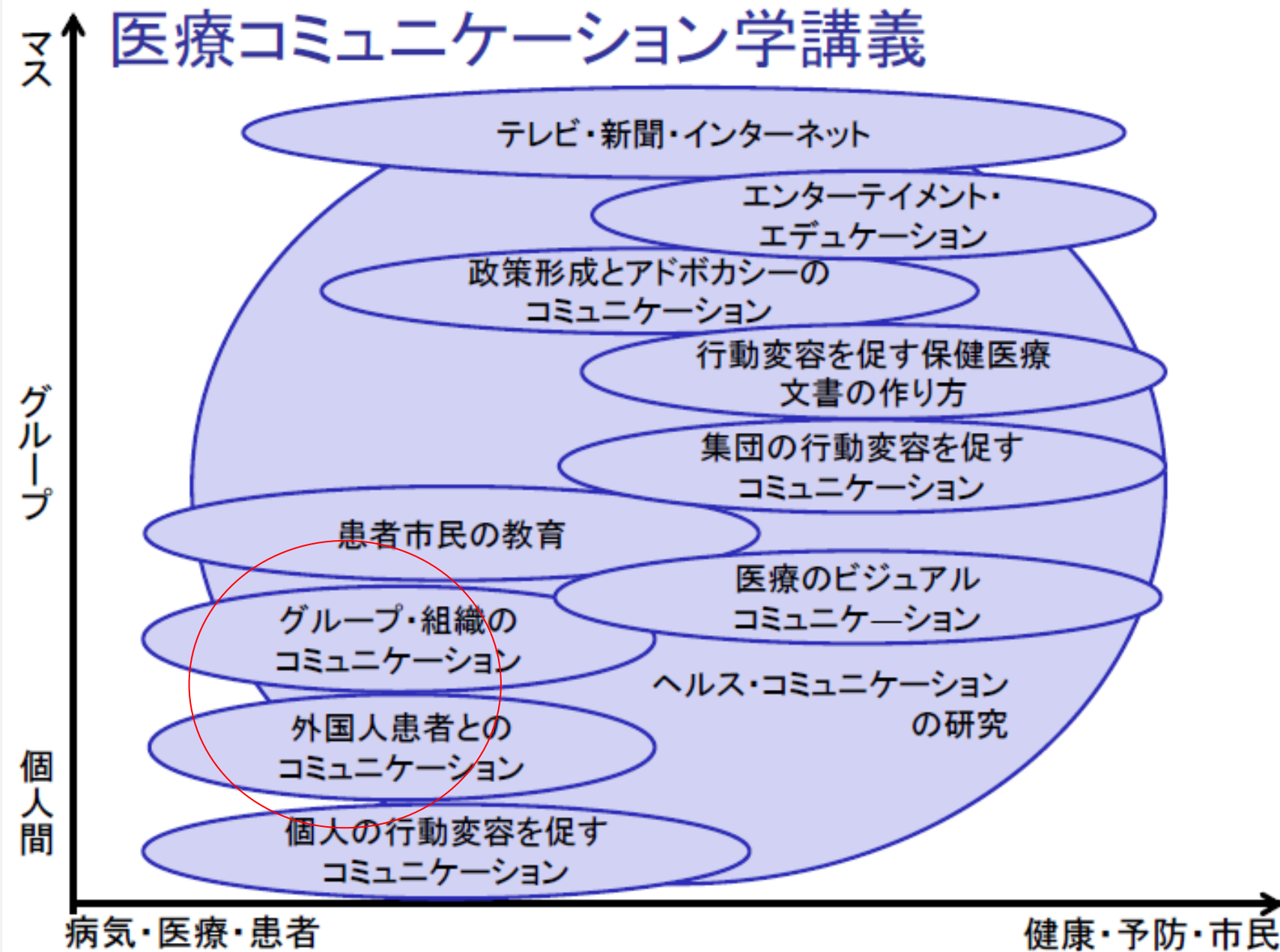
医療通訳者に関わる主なステークホルダー（イメージ）

医療通訳とヘルスコミュニケーションとの関係

引用元：平成31年 厚生労働省 医政局 総務課 医療国際展開推進室第2回 訪日外国人旅行者等に対する医療の提供に関する検討会「医療通訳の現状と課題」
<https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000472213.pdf>



医療通訳に特徴づけられるコミュニケーションとは何があるか？



順天堂大学大学院医学研究科 医療通訳コース内容



2020.11.04 (WED)

プレスリリース 大学・大学院

順天堂大学大学院医学研究科に医療通訳者養成のための「ヘルスコミュニケーションコース」を開設

～ 医療者と患者間のコミュニケーションを支援する、医療通訳者の養成を目指す ～

順天堂大学大学院医学研究科（医学研究科長：服部信孝）は、医学研究科医科学専攻修士課程に、医療通訳者（英語・中国語）を養成するヘルスコミュニケーションコースを開設します（2021年4月開講予定）。ヘルスコミュニケーションコースでは、厚生労働省の医療通訳養成カリキュラムに基づく認定医療通訳者養成講座を修め、医療通訳に必要な専門的知識、技法を体得し、医療通訳を必要としている患者や家族に適切な支援を提供して、医療者と患者間のコミュニケーションを支援する、医療通訳に重要な役割を果たす人材を養成します。

2003年

MICかながわが、横浜市国際交流協会の助成を受け、横浜市内の医療機関に医療通訳の派遣を開始

2004 年

大阪外大大学院で「医療通訳翻訳の実務論」を開講

日本通訳学会第5回年次大会、コミュニティ通訳分科会 特別企画シンポジウム (2004)

「日本における医療通訳の現状と課題」

専門用語が多い
ボランティアでは厳しい

2015年

大阪大学大学院国際・未来医療学講座医療通訳養成コース開講
(1年コース、りんくう医療総合センターが後援)

2016年

藤田保健衛生大学大学院保健学研究科に医療通訳分野の修士課程が開講

2017年

国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科に「医療通訳・国際医療マネジメント分野」新設

専門教育機関として厚生労働省の「医療通訳育成カリキュラム基準」に準拠

2021年

順天堂大学大学院医学研究科医科学専攻に「医療通訳」新設

医療通訳教育における
本コースの位置づけは？

研究

実践

一般

専門

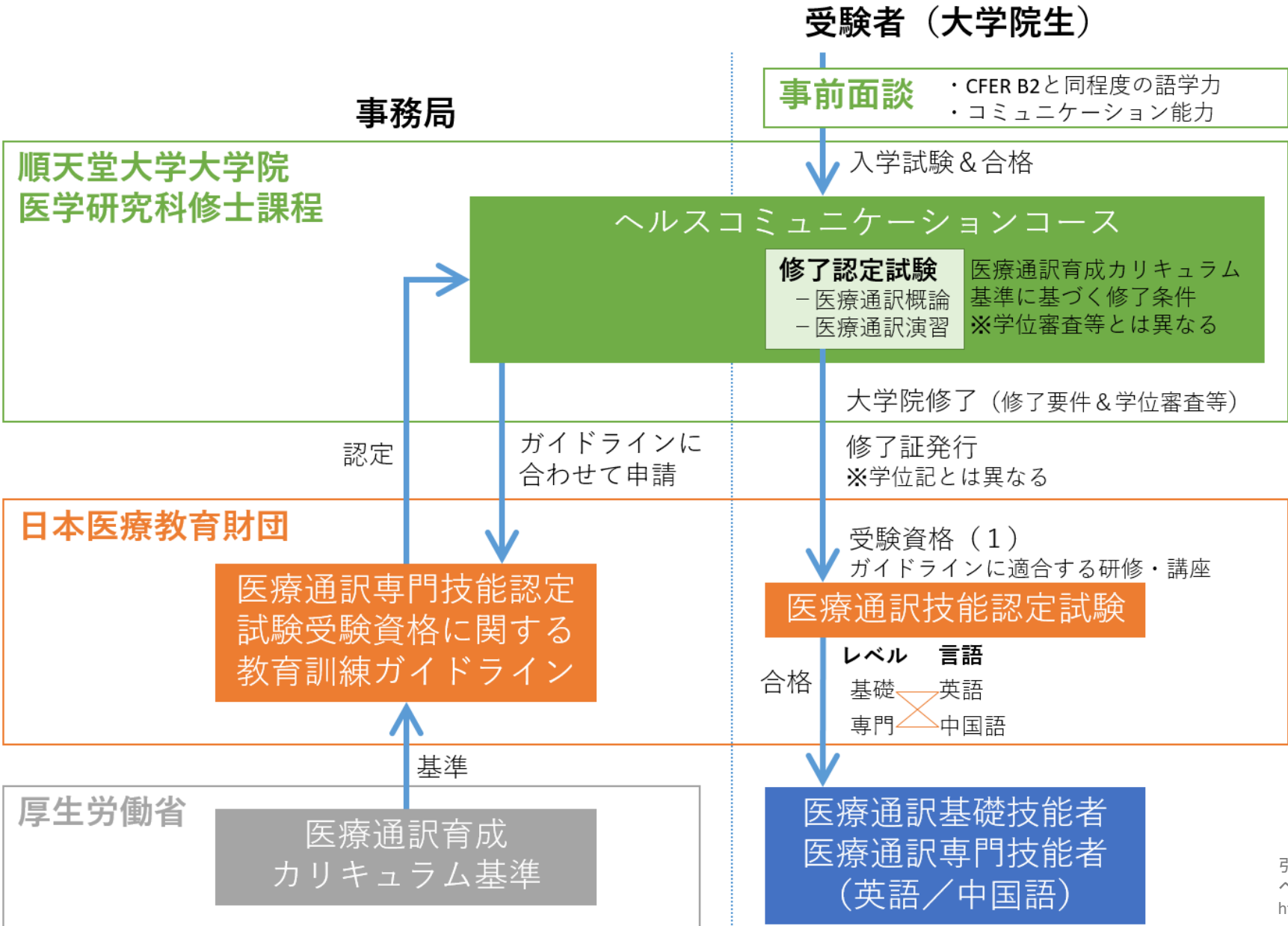
地方自治体の
国際交流
協会など

通訳学校での
医療通訳
教育など



順天堂大学大学院
医学研究科
「医療通訳」修士課程

順天堂大学大学院医学研究科医科学専攻ヘルスコミュニケーションコース：概要フロー



厚生労働省の「医療通訳育成カリキュラム基準」に基づいたコース

講義項目	講義分野	必要時間
オリエンテーション		
・ 通訳理論 ・ 医療通訳者の役割 ・ 対話通訳と相互作用	医療通訳理論	7. 5時間～
・ 日本に暮らす外国人の現状 ・ 外国人医療の現状 ・ 外国人の在留資格と滞在ビザ	患者の文化的小および社会的背景についての理解	1. 5時間～
・ 情報収集方法（用語集の作成と情報収集）	通訳に必要な通訳技術	1. 5時間～
・ 医学概論 ・ 身体の仕組みと疾患の基礎知識 ・ 検査・薬に関する基礎知識	医療の基礎知識	2 4時間～
・ 日本の医療制度の特徴 ・ 社会保障制度	日本の医療制度に関する基礎知識	4. 5時間～

引用元：厚生労働省『医療通訳育成カリキュラム基準』

<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10800000-Iseikyoku/0000209866.pdf>

開設までの道のり



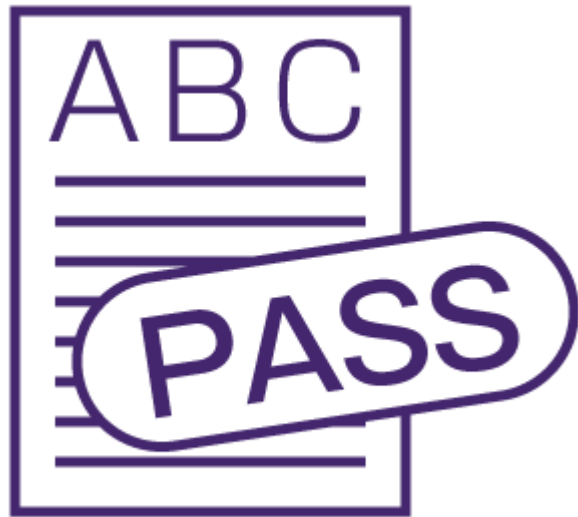
01

幅広い受入体制



03

社会人大学院生・
外国人留学生の受入



02

入学試験（語学試験）
の免除



本コース入学者選抜の方針（アドミッションポリシーより）

事前面談における確認事項

語学力

厚生労働省医療通訳養成カリキュラムに従い、CEFR B2相当の語学力が身についているか確認

コミュニケーション力

目的意識と倫理性および積極的態度を有しているか、自分の考えを適切に表現することができるかどうか、対話によるコミュニケーションを通じて確認

適性

医療通訳者として病院スタッフや患者さんと良好な関係を構築し、維持することができることができるか
専門科目を学び、修士論文を執筆する意欲があるか

01

入学試験選抜として
語学試験及び面接試験を実施

出願前に、本コースが求める水準を満たしているかどうかを確認するため、本コース担当教員による**事前面談**が必須

02

順天堂大学大学院医学研究科医科学専攻ヘルスコミュニケーション コース：教授陣



コース担当専任教員（フランソワ・ニヨンサバ、野田愛、大野直子）：主に論文指導、病院実習を担当

外部招聘教員の一例（例：2021年度医療通訳概論）

南谷かおり先生（りんくう総合医療センター 国際診療科 部長、医師）

矢島行子先生（MICかながわ英語医療通訳兼コーディネーター、全国医療通訳者協会NAMI事務局）

神成美幸先生（看護師）

白川忍先生（中国語医療通訳者、国際医療福祉大学非常勤講師）

重野亜久里先生（多文化共生センターきょうと 代表）

井上茂之先生（健生会羽村相互診療所 医師）

澤田真弓先生（メディフォン株式会社 代表取締役 CEO）

森田直美先生（NAMI代表理事、英語医療通訳者、会議通訳者）

石田牧子先生（日・米看護師）

栗原朋之先生（会議通訳者）

ジュリア・クネセヴィチ先生（豪州NAATI認定医療通訳者、順天堂大学非常勤講師）

村松紀子先生（医療通訳研究会MEDINT代表）

コース設立にあたり
ご支援いただいた
主な先生方：

国際医療福祉大学
押味貴之先生

藤田医科大学
（2020年度）
服部しのぶ先生

順天堂大学大学院医学研究科医科学専攻ヘルスコミュニケーションコース ：基礎教育科目

必修10単位を履修すること。

授業科目	必修/選択
基礎医科学概論Ⅱ（人体機能構造学）	必修
基礎医科学概論Ⅰ（生化学・生理学）	必修
医科学研究方法論Ⅰ（医学研究デザイン、演習）	必修
医学と社会医療Ⅰ（医療倫理学）	必修
健康行動科学概論	選択
医療保健福祉法・政策概論	必修
医療通訳概論	必修

順天堂大学大学院医学研究科医科学専攻ヘルスコミュニケーションコース ：専門教育科目

必修10単位、選択必修1単位以上を履修すること。
※国際感染症学または感染症の基礎と臨床いずれかを必修



授業科目	必修/選択必修/選択
医療コミュニケーション、臨床医学概論（内科系、外科系）、健康と文化・社会、医療通訳演習、医療通訳病院実習（2年次）	必修
国際感染症学、感染症の基礎と臨床	選択必修
医療カウンセリング概論、メタボリックシンドロームの基礎と臨床、免疫の仕組みと疾患、がんと遺伝子、検査医学と病理、大学院セミナー	選択

順天堂大学大学院医学研究科医科学専攻ヘルスコミュニケーションコース ：特別研究科目と修了要件

授業科目	単位数	必修/選択	開講時期
医科学特別研究（研究・論文指導）	4	必修	2通年

※所属する研究分野「医療通訳」が開講する特別研究科目を履修する。

■ 修了要件及び履修方法

必修24単位、選択必修1単位以上、選択5単位以上、計30単位以上を修得し、必要な論文指導を受け、本大学院が行う修士論文の審査及び最終試験に合格すること。

順天堂大学大学院医学研究科医科学専攻ヘルスコミュニケーションコース ：得られる学位、資格

- 修士論文審査及び最終試験に合格した学生に**修士(医科学)の学位**を授与
- 医療通訳育成カリキュラム基準に基づく修了条件を満たし、修了認定試験に合格した者に、**認定医療通訳コース(基礎、専門)の修了証**を授与
- 本コースは一般財団法人日本医療教育財団の認可を受けており、修了者は日本医療教育財団が実施する**医療通訳技能認定試験の基礎・専門試験の受験資格**を得る

順天堂大学大学院医学研究科医科学専攻ヘルスコミュニケーションコース ：他の大学院や医療通訳養成コースとの違い

我が国初の、**医学系研究科に新設されたコース**である

ヘルスコミュニケーションコースとして**医療コミュニケーションが必修**の授業に入っている

医学研究科内の他のコースと同様に修士論文が審査される

Medical Education

Development and pilot testing of a novel education method for training medical interpreters



Naoko Ono^{*}, Takahiro Kiuchi, Hirono Ishikawa

Department of Social Medicine, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, Tokyo, Japan

ARTICLE INFO

Article history:

Received 13 August 2012

Received in revised form 17 July 2013

Accepted 3 September 2013

Keywords:

Doctor–patient communication

Training program

Medical interpreting

Healthcare interpreting

ABSTRACT

Objective: The goal of this study was to determine core competencies by means of a systematic literature review and to design and test an interpreter training program.

Methods: Core competencies in medical interpreting were searched using a systematic literature review. An intervention program was developed to improve core competencies. Pretests and posttests were conducted to pilot-test knowledge and interpreting skills in participants aged 22–62 years ($n = 43$). Results of the tests were compared.

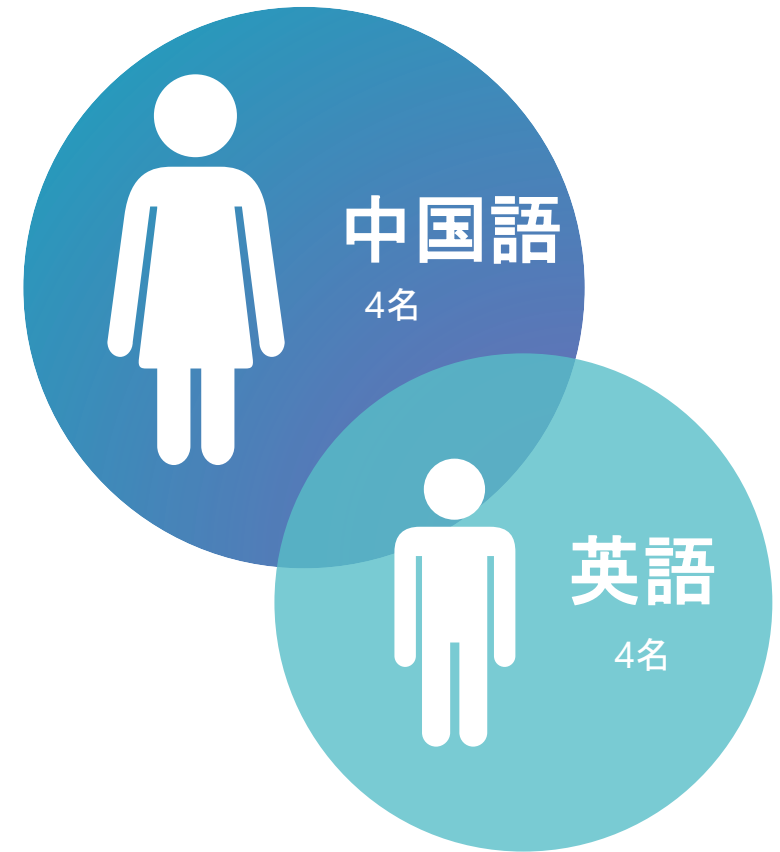
Results: Results of the systematic review indicated five core competencies: (a) maintaining accuracy and completeness; (b) medical terminology and understanding the human body; (c) behaving ethically and making ethical decisions; (d) nonverbal communication skills; and (e) cross-cultural communication skills. Statistical analysis showed a significant improvement in knowledge and interpreting skills in the intervention program compared with the control program.

Conclusion: Posttest assessment showed that the developed training system can be useful in improving knowledge and quality in medical interpreting.

Practice implications: A 3-day training program for medical interpreters could bridge the gap between medical professionals and patients with limited English proficiency while being amenable to integration into clinical flow.

1期生

- 30件以上の問い合わせ、
数十件の事前面談
- 2021年度合格・入学者：英語4名、
中国語 4 名
- 入学者の内訳：医療通訳経験者5名、
医療者1名



順天堂大学大学院医学研究科医科学専攻ヘルスコミュニケーションコース ：在校生のコメント



入学して有意義だと感じていること

第一線の先生方から講義を受けられること。

これまでも（通訳学校で）ドクターによる一通りの医学講座を受けては来たものの、特に患者自身がドクターというケースでは専門家同士の話が難しいと感じた。生化学、解剖学、などなどすべてが本当に有意義。

実際の通訳で専門用語を訳すことは少ないとしても、1知って1訳すのと、10知って1訳すのでは自信も違うし、通訳が自信を持って訳せば、聞き手も安心して聞ける。

また、様々な背景を持つ他の学生さんからも大いに刺激を受けている。
特に論文発表の時は選ぶ論文も観点も全く違い非常に面白かった。

苦労していること

まず最初にシラバスに書いてあることの意味がわからなかった！

指定の教科書を読んでもさっぱりわからず、（特に医科学研究方法論Ⅰと基礎医科学概論Ⅰ（生化学）まず高校の生物・化学の本で復習し、さらに易しく書いてある本を購入、（生化学、解剖学、免疫学、病理学、薬理学）これを並行し読みつつ授業を受けたら、ようやくわかるようになった。夢の中でもクエン酸回路がグルグル回り、最初の一週間で2キロ痩せた。

でもこの環境でなければここまで勉強はしていないと思うので、やはり人間自分を追い込むことは必要だと思った。

順天堂大学大学院医学研究科医科学専攻ヘルスコミュニケーションコース ：在校生のコメント



入学して有意義だと感じていること

- ・ 毎日が刺激的
- ・ 文系でも医学を学べる
- ・ 同じコースの方の人間性が高く、不慣れな環境下で助け合い連携することができる
- ・ 授業が面白い
- ・ ニュースで報道されていないような、コロナ関連情報について知ることができる
(かなりの確率で講義で取上げられます)

苦労していること

- ・ 一部授業は理系の学部卒であることを前提に話が進んでいると感じるほどに高度な内容であるため、理解が厳しいときがある

同研究科で文系出身者（国際教養学部卒業生）の修了実績が多くありますので、どうかあまりご心配なきよう・・・

ヘルスコミュニケーション学コースの 将来的展望

現状の
医療通訳者

医療通訳者
(常勤・非常勤)

医療通訳者として雇用されている通訳者
病院の国際診療部など、外国人患者を受け入れている医療機関で雇用されている通訳者
外国人患者の受け入れに対するコーディネーターとしての業務、病院業務を行う場合もある
一部通訳訓練を受けている通訳者もいるが、訓練を受けていないことも多い

ボランティア通訳者

無償(交通費など一部有償)で派遣される通訳者
NPO やボランティア団体、地域の国際交流協会に登録

多言語のできる
医療従事者

本来は別の業務を行う職員として雇われている。通訳が必要なときだけ、臨時的に通訳者として対応する

海外に住んでたなら英語話せるんでしょ？
ちょっと来て通訳してよ

訓練を受けていない
アドホック通訳者

家族、知人などの通訳。訓練や研修を受けていない場合が多い。知識や能力に差がある。倫理規定がないため個々のスタンスを持っている。

将来的展望：専門職としての医療通訳者

Millerson (1964)

「**専門職**とは、主観的にも客観的にも、相応の職業上の地位を認められ、一定の研究領域を持ち、専門的な訓練と教育とを経て固有の職務を行う、比較的地位が高い非肉体的職務に属する職業」

厚生労働省（平成29年度）

「医療通訳者は、日本語が母国語でない、若しくは日本語でのコミュニケーションに制限がある患者等に対して、日本語での**医療・保健を安全かつ安心して提供するために、通訳技能と医学知識を用いて相互理解を支援する専門職**と考えられる。」

引用元：Millerson, G. 1964. The Qualifying Associations: A Study in Professionalization. Routledge and Kegan Paul.

引用元：厚生労働省 医政局 総務課 医療国際展開推進『第2回 訪日外国人旅行者等に対する医療の提供に関する検討会』

<https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000472213.pdf>

将来的展望：専門職としての医療通訳者

全国医療通訳者協会（NAMI）趣意書

「患者等が必要な情報を得て、自己決定が行えるように医療者とコミュニケーションを行っていくことは、医療を受ける者だれでもが保障されるべき人権の一つである。医療者においても、患者等に適切なインフォームドコンセントを行い、有効な治療を行うためには、患者等とのコミュニケーションを取り持つ医療通訳者の関わりが必要不可欠になる。

医療通訳者は、患者等と医療者をコミュニケーションの側面から支援することで、患者等の人権を守る重要な任務を担う。それには、医療通訳者自身が専門職として独立し、広く社会に認識されることで、患者等と医療者双方にとって有益な業務が行えるようにしていかなければならない。」

将来的展望：専門職化への動き（教科書）



医療通訳

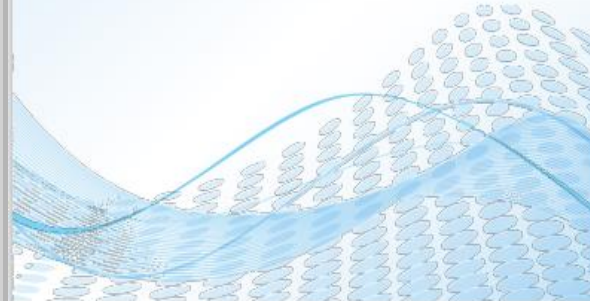


「医療通訳育成カリキュラム基準」（平成29年9月版）準拠

引用元：厚生労働省 医療通訳に関する資料
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000056944.html>

外国人患者の 受入れのための 医療機関向けマニュアル

（改訂 第2.0版）



北川 雄光

慶應義塾大学病院長・医学部外科学（一般・消化器）教授

引用元：厚生労働省
外国人患者の受入れのための医療機関向けマニュアル改訂2版
<https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000646749.pdf>

外国人患者の 受入参考書

（改訂第2版）
（医療機関・サービス提供者向け）
（外国人患者の受入れに関する）



経産省編集

引用元：経産省 外国人患者の受入参考書
https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcare/iryou/downloadfiles/pdf/26fy_sankousyo_all.pdf

将来的展望： 専門職化への 動き（学会）

ヘルスコミュニケーション学
会内学会としてヘルスコミュ
ニケーションとつながる
テーマを研究

医療通訳学研究の発展

研究と実践の相互連携を重視

2020年国際臨床医学会(ICM)
認定「医療通訳士®」認定制度
発足

日本医療通訳学会



ホーム

入会案内

役員等

学術集会

学会雑誌

リンク等

学会の概要

医療通訳は、語学と異文化コミュニケーションの能力を必要とする高度なヘルスコミュニケーションです。従来、学問としての医療通訳学を対象とする学術団体は存在していませんでしたが、日本医療通訳学会が2021年1月に設立されました。日本通訳学会は、下記の方針のもと、必要な学術集会、学術雑誌の発行等の活動を行っていく予定です。

1. 異文化コミュニケーションと語学を含む高度なヘルスコミュニケーションとしての医療通訳学の確立
2. 実証研究などによるエビデンスに基づいた科学としての医療通訳学研究を目指す
3. 研究と実践の相互連携を重視

将来的展望：本コースの目指す医療通訳者像

—— 医療者と患者間のコミュニケーションを支援する、
＝ヘルスコミュニケーターとしての
医療通訳者の養成を目指す

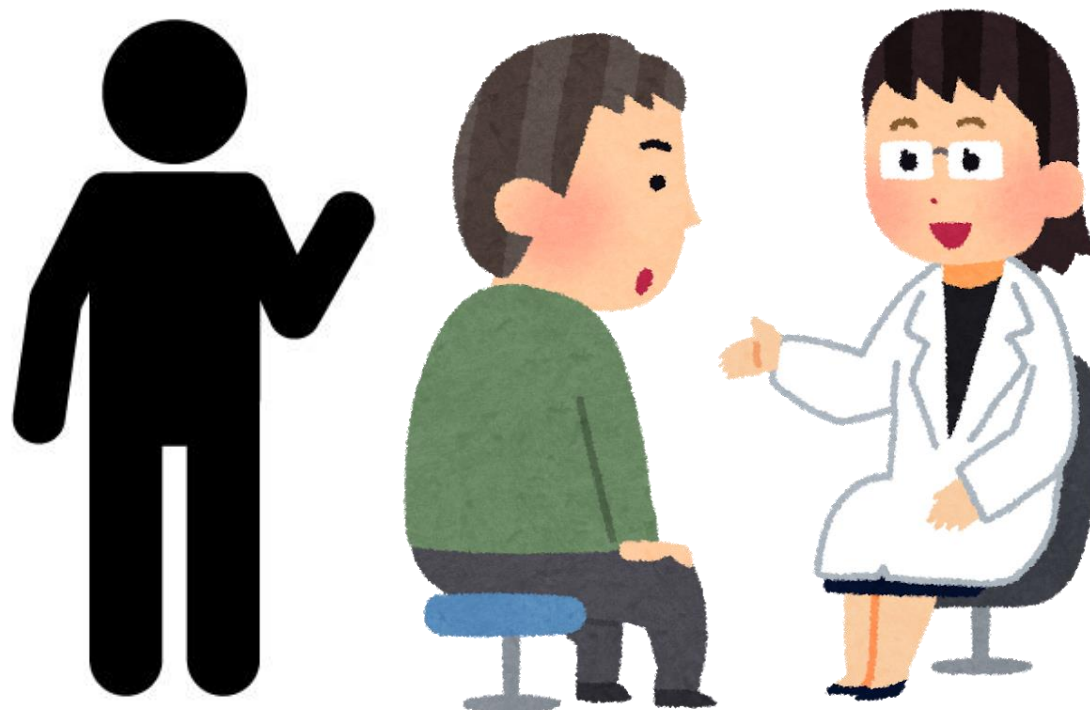
医療通訳理論
患者の文化的小および社会的背景についての理解
通訳に必要な通訳技術
医療の基礎知識
日本の医療制度に関する基礎知識

医学研究に関する理解

医療者の考え方への理解

ヘルスコミュニケーションの知識

仁のこころ（他を思いやり慈しむ心）



共に学ぶ仲間を募集しています



ご清聴ありがとうございました

＜コース内容に関するお問い合わせ先＞
順天堂大学大学院医学研究科
ヘルスコミュニケーションコース
准教授 大野 直子 TEL：03-3813-3111
E-mail: hcmedint@juntendo.ac.jp

＜取材に関するお問合せ先＞
順天堂大学 総務部 文書・広報課
担当：松浦 剛志 TEL：03-5802-1006